

北杜市立小中学校適正規模等審議会 会議録

1. 会議名；第2回 北杜市立小中学校適正規模等審議会
2. 日 時；平成20年2月14日（木）午後1時30分～午後3時52分
3. 場 所；北杜市役所 東館特別会議室
4. 出席者；
（委員）小澤龍一・小泉 徹・堀内 弘・藤原香代子・三井善成・小尾隆一・
小宮山藤雄・原 誠・中山英毅・小澤三月・由井峰雄・大島正道・
浅川ひろ美・日向 勝・武井美恵子

（事務局）小沢教育次長・小林教育総務課長・長坂総務担当リーダー・
小松施設担当リーダー・藤嶋学校教育担当リーダー・総務担当堀内・
総務担当篠原・施設担当三井
5. 議 題；北杜市立小中学校適正規模等について
6. 公開・非公開の別；公開
7. 傍聴人の数；2人
8. 審議内容；
（事務局）「小中学校の普通教室調べ」「小中学校適正規模等審議会スケジュール（案）」「山梨県適正規模検討報告書による試算学級数」「小中学校職員数調べ」について説明
（委員）山梨県の教育の現状は、全国的レベルから15年から20年遅れているという定評がある。この点を認識し、この審議会をフロンティア精神ですすめていくことに、共通理解と共通認識を図りたい。
（議長）個人でそういう意見を持っているのは構わないが、委員全員の意識統一としていいのか。
（委員）一般市民の感覚であり、私たちは一般市民の代表である。
（議長）すべての責任を一般市民とせず、自分の考えに責任を持って発言するのが委員ではないか。審議会であるため、委員の考えを縛る必要はない。
（委員）長野県の実例として、小海町では、国が40人学級を推進しているときに、30人学級を実現している。そういう実例もあるので、北杜市の教育委員会がそういう方針をとってもいいのではないか。
（議長）それは、今からの審議の中で検討し、皆様方の意見をいただきたい。ただ、今日出された資料のデータから、北杜市の1学級がどのような数字であるかを根拠として、審議した方がいい。
（委員）平成29年度を予想しての今日の資料は、大手企業の撤退を勘案してい

ない。

(事務局) 現在の人口を経年で検証し推計した。

(委員) ここにいる委員は、それぞれの立場で考えも違う。事務局から与えられた資料を参考に意見を出し、北杜市独自の考えをまとめていく職務である。個人的な意見を掘り下げるのではなく、議案の審議ができるよう調整いただきたい。

(議長) 2 番目の未来志向でやっていくということについては、委員の考えは同じであり、当然、共通理解において進められている。

データというものは、現段階の中で得られる数値であり、固定的なものではなく、状況によっては変わり得るものということ年頭に話し合っていくものではないかと思う。

(委員) フロンティアスピリットで、審議会を進めていくことで共通認識を図りたい。

(委員) フロンティアスピリットという抽象的な言葉ではなく、山梨県の教育が 15 年遅れている根拠はなにか。どの資料からそういう結論が出るのか。なにを持って古いと言っているのか。

委員が自分で判断して、共通理解というのはできない。

(委員) 将来的な人口は、現時点での試算なのでズレはあると思う。試算生徒数が何年後にどれくらいになるかというのは、複数の資料を並列して議論する方が間違いないのではないかと思う。

もし他に将来的な人口動態の推計があれば、それも含めて比較できる形で資料として、事務局にお願いしてもいいかと考える。

(事務局) この資料は平成 19 年 5 月 1 日現在で、年 1 回行われる児童生徒の調査のものである。旧町村の住民基本台帳を過去 10 年間さかのぼり調査し、それを 10 年将来へ持っていったというものであるため、今現在の経済状況のものについては、十分配慮されている資料だと考える。

ただし、ファナック、エレクトロンについては、これからの部分であるため把握は難しい。市としてこの資料は、最新である。

(議長) 人口は、その時代によって推移する。そういう総研の資料を、発言とともに用意していただきたい。

(議長) 「小中学校の適正規模に関すること。」について話を進めていきたいが、いかがか。

(各委員) 異議なし。

(委員) その前に、この審議会スケジュール(案)の議論を先にした方がいいのではないか。

(議長) 事務局から、9 回をめぐりに答申をまとめていくという案が出された。このような進行状態かどうか。

(委員) 学校での説明会が 9 月から 11 月に予定されているが、無理がないか。住民説明会が、北杜市のパブリックコメントに関する告示に適用するのか、あるいは、中間の答申をある程度広く出し、パブリックコメントとして、説明会に参加されない人でも意見を寄せることができるのか、確認したい。

- (事務局) 代表区長に、各区並びに区民まで啓発及びその意見徴収をお願いした。それをする事自体がパブリックコメントであり、もっと細かな部分でやっていると考えている。
議会の調整、審議会の調整、PTAの調整は、今から行わなければいけないと考えている。しかし、これは(案)として進めていき、21年の3月には答申をいただきたく、この日程を作成した。
- (委員) 異議なし。
- (委員) ある程度の決定事項については、広報やホームページで周知していただき、それに対する意見は、FAX、電話、手紙等で集め、区と平行していただきたい。
20年度末での答申を目標にしたいとは思いますが、もっと慎重審議しなければいけない場合に回数を増やすなどし、絶対この締め切りでやらなければならないということではないということを確認したい。
- (委員) これはあくまでも案として出しているものであり、すべてこういう形で進んでくものではないと捉えている。
先ほどの資料についても、新しいか古いか考えていない。審議会はいろいろな意見を出し合っているものであり、この1枚の書類ですべてが決まるものとは思っていない。いかがか。
- (委員) もしできなかつたらということは今考える必要はない。学校を適正規模にしていくのは、必要であることは事実だ。
結果的にできない場合もあると思うが、先送りすることはいいことではない。最大限努力した上で問題だと考える。
- (議長) まず諮問された「小中学校の適正規模に関する事」について、話し合いを持ちたい。
前回、中学校からという意見があったが、小学校からまず話し合いを進めていった方がよいのではないかと考えている。まず北杜市の小学校の適正規模のあり方について、今日は慎重審議をして、ある程度の目安を出していただきたい。
- (委員) 全体的にどうするかとすごく小規模な学校を存続させるかは、別の問題ではないか。
- (委員) 同じように考えていき、その結果という考えで進めていったらどうか。
- (委員) 学校として独立させるか、分校にして職員数を削減するか、市の考え方、あるいは教育現場の考え方として、可能性があるか。ある程度、どういう利害や弊害があるか、共通認識しておきたい。
- (議長) 各論の部分に入っていくと、答申から外れてしまう。
部分で論議することは、答申を出した後個別な課題で、補填していくということをしていかなければならないのではないか。
- (委員) 複式学級を認めてもいいのか。複式学級がいけないのであれば、再編しなければならないというのは、大きなラインだと思う。
- (委員) 適正規模を論議することによって、増富小は分校になるのか、それとも他の小学校に統合するか、また、学校として存続するのか出てくるのではないかと思う。

- (委員) 今話すことではなく、全体の論議として出てくるということか。
- (議長) でてきて当然だと思う。
まず全体としてどうあるべきなのか、その結果として、各論の増富小学校の場合はどうであるかという問題になっていくのではないかと思う。
その中で、前回意見のあった、地域の歴史などは大切にしてもらいたいとの問題もでてくるのではないか。
- (委員) 何名規模ではなく、クラス数の問題から話をしたい。
保育園から中学校まで同じメンバーとなり切磋琢磨する場所もなく、なじめない子はそのままとなってしまう。
そういう点から、クラス替えができる規模、2クラス以上という県の考え方は間違っていないと思う。しかし、北杜市は面積が広い。そう考えていくと、一概に2学級だからいいということでもない。
- (委員) 1学年が少人数だと、きめ細やかな指導という点ではありがたいと思っている。反面、その子の評価や上下関係も、保育園から一緒なので変えていくのは難しい。
学習面でも、合同体育という形で、なかなか学年ごとではできないという不満を持っているようだ。PTA役員も、人数が足りず何回もやらなくてはいけない。
しかし、地域の意見を聴くと、地域の活性化につながっており、子どもの声を聞くだけで元気になるというお年寄りもいるため、そういう面も考えて検討していただきたい。
- (委員) メリット、デメリットは交差してると思う。デメリットをメリットに変えるよう、考えていけたらと感じた。
- (委員) 学校にどれくらい時間をかけて、通学しているのか。スクールバスの現状はどうか。資料として出していただきたい。
複数学級のメリット、長距離通学のデメリット、全然別のことだが、それも一緒に考えなければいけない。
- (委員) 県の資料のメリット、デメリットは非常に参考になるが、参考程度にしないと、地域性を考えていく上では例外になる。
私は、地域性を重視していきたい。
- (議長) 北杜市の未来志向と地域の歴史をどのように整合させていくのか課題である。
- (委員) 適正規模を審議することによって、学校の適正配置が出てくると思う。
今は適正規模というものを重点に審議した方がいい。
- (委員) 小学校においては、現在の学校がほぼ通学の最大距離に近いのではないかとの考えがある。いままで各町に小学校は最低1つあり、それをなくすとすると、親の負担も出てくる。
区長会で一生懸命PRしてくれと言われたが、やはり広報などで広く進捗状況を報告してもらいたい。
遠くから通う子どもたちも、デメリットはあるが、体力の向上などにつながり、必ずしもスクールバスの送り迎えがいいと思わないが、そういうことも考慮しながら規模を考えていったらどうか。

- (議 長) 長坂の小学校は耐震がされていない。ということも考え、議論しなければならない。
何とか最低限度教育を補償していくには、何名が適正であるのか考えなければならない。
- (委 員) 規模の問題を議論すると、あと配置や学級という問題は自ずとついてくるため、これについて重点的な議論を希望する。
- (委 員) 学級の規模は、学習や教師の目が行き届くというメリットで、かなり少ないところに設定しても、いいのではないか。
- (委 員) 全国レベルに達している、県内の私立小学校の例を参考に、15人1学級をたたき台として提案する。
- (委 員) 確かに少ない人数が良いのは確かだが、少ないからできるかという問題でもないような気がする。ある程度の人数がいることも必要ではないかと思う。
- (議 長) 北杜市の将来を考えて、どの位の数がよいのか、ある程度の数字を出していきたい。
ある程度の集団を形成する人数がなければ、子どもは次の時代に育っていかない。そう考えたときに、もっと北杜市に見合った基準を論議していただきたい。
- (委 員) 学年規模で言えば 40 名以上、そうしなければ子どもたちがかわいそうではないか。
- (委 員) 20 名から 25 名位が目も届くし、切磋琢磨もでき妥当かなと思う。
- (議 長) 20 名から 25 名位という数字が出てきたが、意見をお願いする。
- (委 員) 20 人いれば、集団として成り立つのではないか。
クラス替えができないというデメリットを考えても、2 クラスにこだわる必要はないと思う。1 学年 20 人いたら、学校として、集団として成立するのではないかと考える。
- (委 員) クラスの人数は、20 人から 25 人が妥当だと思う。しかし、各学年 1 クラスだと、1 年生から 6 年生まで同じメンバーとなってしまう。その中でうまくやっていけない子も出てくると考えたときに、クラス替えができて、先生とも友達とも違った環境の中に出られるような場所をつくってあげて考えることを考えて、最低 2 クラス以上はあった方がよいのではないかと思う。
- (委 員) 社会生活を営むには、ある程度の人数は必要だと思う。
クラス替えができる、1 学年に 50 名以上、2 クラスという形の編成が良いのではないか。
- (委 員) たとえば小学校で 1 クラスであっても、中学校で 2 クラスだったら、保育園から義務教育まで固定したというのは避けられるのではないか。
- (議 長) 2 学級以上あると、ある程度子どもは、逃げ場を持つことができる。また、20 名・25 名の少人数であれば、教師の方でもある程度気づく。そういう環境を整えることが、基本でなければならないと思う。
- (委 員) 実際のいじめの話聞きますと、やはり 2 クラスあるということは、本当に必要なとつくづくと感じた。

- (委員) 小学校の教員をしている方の話から、25 名が一番やりやすいと聞いた。担任がやりやすいと言うことは、そのクラスの運営がうまくいっている。そこが理想だが、北杜市の現状を考えた場合、そうはいかないのかなど考える。
- (委員) いじめの問題で、本当に 1 クラスではだめなのか。
いじめの問題を何とかしなければいけないという思いはある。はたして、学年 2 クラスがいじめの問題にどれくらい有効なのか。
- (委員) 1 クラスだからだめということは言えないと思う。メリットもあればデメリットもある。
2 クラスであれば、担任も 2 人となるため、相談できる。隣に頼める体制があった方がいいという意味では、単級より 2 クラスの方がいいのではないか。ただし、単級がだめではない。
- (委員) 2 人担任制というのはできないか。
- (議長) それは今回の諮問になってない。最後のまとめの中で北杜市としての支援体制を議論したい。
- (委員) 支援体制はすでに行っている部分はある。そういう面で市単の職員が配置されている。
- (議長) 北杜市の現状を見ると、かなり手厚い教育ができていると思う。
そのことを進めていくためにも、小学校の場合、1 学級 20 名以上が望ましいとまとめさせていただく。いかがか。
- (各委員) 了承する。
- (議長) 次回は、中学校の適正規模及び耐震の問題を論議していきたい。
- (委員) 学年規模が 2 クラスという話も出ていたので、そういう意見を記録に残してほしい。
- (議長) 山梨県の 2 学級以上と同じ意見をいただいたという形で、事務局は記録していただきたい。
では、次回の日程を事務局で示していただきたい。
- (事務局) 開催日は、予定月の第 4 週目の木曜日を目安にお願いしたい。
4 月 24 日(木)と決めさせていただく。
- (各委員) 了承する。
- (議長) 次回は総研資料をお願いしたい。
- (委員) スクールバス使用状況、バスの台数、所要時間の資料をお願いしたい。
- (事務局) スクールバス設管条例を資料として提出する。
さらに詳細にということであれば、順次用意する。
- (委員) 合併前に統合した学校に、統合に対しての条件があればお願いしたい。

－互 礼－

－ 1 5 時 5 2 分 終 了 －